

「ホイアン・ミーソン遺跡・チャム島の保存・価値発揮活動の評価会議」挨拶  
(2019年9月7日14:00～ 於：クアンナム省会議センター)  
(挨拶時間：5～7分 (通訳含む))

チン・ティ・トゥイ 文化スポーツ観光副大臣  
マイ・ファン・ズン UNESCOベトナム事務局長  
レ・ヴァン・ズン クアンナム省常任副党委書記  
ディン・ヴァン・トゥイ クアンナム省副党委書記・人民委員会委員長  
ご列席の皆様,

●日本政府を代表し、ホイアン・ミーソン遺跡・チャム島の保存・価値発揮活動の評価会議が、クアンナム省、文化スポーツ観光省をはじめとする関係者の尽力により、かくも盛大に行われることをお慶び申し上げます。また、今年、ホイアン旧市街・ミーソン遺跡のユスコ世界遺産登録20周年、ホイアン・チャム島のユネスコ世界生物圏保護区登録10周年を迎えられたことに、心よりお祝い申し上げます。

●クアンナム省が擁する、これらの人類の財産が、関係者の尽力により保護されてきたこと、これからも継承されていくべく、この度の評価会が開催されることを在ベトナム日本国大使館は歓迎します。

●クアンナム省と日本との関わりは、400年以上前、ホイアンを訪れた日本の商人たちが「日本人街」を作ったことに始まります。そして、古くからのホイアンと日本の絆を礎に、1990年、文化面における日本の支援が始まりました。

●日本は、「世界遺産条約」の目的、文化遺産や自然遺産を人類全体

の遺産として保護するための、国際的な協力及び援助の体制を確立するという目的に向け、1992年の締結以来様々な貢献を実施しています。たとえば、

- 世界遺産委員会において、委員国を3期務め、副議長国に2度就任。
- 世界遺産条約採択40周年の2012年、京都で「世界遺産条約採択40周年記念最終会合」を開催し、今後の世界遺産条約を展望する「京都ビジョン」を発表。

●その中で、諸国際機関及び各国と共に、日本がクアンナム省の3つの人類の財産の継承に貢献してこれたことを光栄に思います。

●開発著しいベトナムで、クアンナム省が擁するホイアン・ミーソン・チャム島といった3つの財産を保護していくは、今、益々重要性を増していると考えます。

●これらの財産の保護に尽力されてきたベトナム政府関係機関、国際機関、専門家の皆様に敬意を表します。(拍手)

●日本とホイアン・ミーソン遺跡・チャム島の協力について一言触れます。世界遺産「ホイアン」・「ミーソン遺跡」、そして世界生物圏保護区である「チャム島」の魅力を高めるため、日本は官民を挙げて、ベトナム関係機関との連携を強化しています。

●まず、ホイアンでは、1990年～2002年、伝統的建造物7件12棟及び日本橋の保存修理に関する技術協力と、建築史・歴史・生活調査等を融合した研究を実施しています。これらは、友田博通教授をはじめとする昭和女子大学、文化庁及びJICA専門家の協力の下実際され、地域のベトナム人研究グループや修理支援グループを組織し、

能力向上に貢献しました。なお、2017年に安倍総理がフック首相とホア員を訪問され、伝統的建築を見学されました。また、昨年11月、日本政府は無償資金協力で、ホイアン「日本橋」周辺水路の水質改善に取り組み、先進的な下水処理場が完成しました。

●ミーソン遺跡では、2003年からの、日本の支援により、遺跡の保存管理と共に見学者に対する遺跡紹介を行う施設を、ミーソン遺跡入り口に整備されました。

●チャム島では、2016年から2019年1月まで、JICAが「ヘリテージツーリズムによる辺境農漁村の生計多様化プロジェクト」を実施しました。

●最後に、この度のホイアン旧市街・ミーソン遺跡のユネスコ世界遺産登録20周年、ホイアン・チャム島のユネスコ世界生物圏保護区登録10周年記念式典の成功、これら遺跡・保護区が永久に人類に継承されていくことを祈念して、私の挨拶と致します。

ありがとうございました。(了)